



Eiche

Die Eiche ティ・アイへ

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in der Präfektur Chiba

事務局 〒274-0822 船橋市飯山満町 2-681 ワールドナーシングホーム内

Phone: 047-467-6111 Fax: 047-467-6123

お 願 い

会長 平尾浩三

全国日独協会連合会の2008年度年次総会がいよいよ4月21日に幕張メッセで開催されます。昨年、当協会総会においてご説明致しました通り、当協会は連合会の委嘱を受け、主管協会として連合会年次総会の千葉開催に協力する事になりました。当協会にとっては2009年度のたいへん重要な行事であります。

全国日独協会連合会は現在北海道から沖縄まで全国58協会(2協会は今次総会で加入が決まる)が加盟し、年次総会は東京と地方と交互に開催されております。因みに連合会は会長(古森重隆(財)日独協会会長)と8名の副会長で構成する副会長会議が重要事項を所掌し、事務局は東京の(財)日独協会の事務局が兼務しております。

この間当協会は実行委員会を立上げ、連合会と連携し準備を進め、下記のとおり4月21日に年次総会、前日20日には午後に稲毛の放射線医学総合研究所の見学、夕刻に懇親会、翌日22日には「かずさ路」を巡るバスツアーを計画致しました。

目下全国に開催案内を送付しており、近日中に参加協会数並びに参加者数が確定する予定です。これまでの例から25協会、80名前後の参加を予想しております。

皆様のご協力により今回の総会と関連行事を成功させ、連合会の負託に応えたいと思います。別紙に連合会加盟協会に送付致しました行事の詳細をご案内し、行事ごとに会員の皆様にご協力頂きたい事項を付記致しました。ご協力頂ける方は別紙連絡先にご連絡をお願い致します。具体的な内容につきましては追ってお打合せさせて頂く予定でございます。ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

以上

記

- 日時: 2009年4月20日(月) 13:30~15:30 放射線医学総合研究所見学
2009年4月20日(月) 18:30~20:30 懇親パーティー
2009年4月21日(火) 10:00~16:00 総会
2009年4月22日(水) 09:00~ バスツアー(成田山ーかずさアカデミアパークー證誠寺ー海ほたる)
- 場所:(総会会場)千葉・幕張メッセ国際会議場301号会議室

新春講演会開催

恒例の新春講演会は、2月7日(土)2:30より海浜幕張駅近くのWBG(ワールド・ビジネス・ガーデン)マリブイースト14階にある千葉県国際交流センター研修室に会員28名を集めて開催された。平尾会長の挨拶、國枝副会長の伊藤光昌氏の経歴紹介でスタート。

演題は、『精密制御の世界』。精密制御、ハーモニック・ドライブの原理は、アメリカの天才発明家、C.W.マッサーにより発明され、製品化に着手したのが、米国のUSM社と(株)長谷川歯車で、同社のハーモニック・ドライブ事業部は1964年にUSM Co., Ltd.と技術提携して、その実用化に成功。1970年に両社の共同出資によりドイツにハーモニック・ドライブ・システムズ社が設立され、1979年からは、現在の(株)ハーモニック・ドライブ・システムズとなった。同社の製品の特徴は3つの基本部品、即ち、ウェーブ・ジェネレーター、フレクスプライン、サーキュラ・スプラインで構成されている為、小型軽量化が可能であり、また、歯の噛み合い数が多い為、より大きなトルクを生み、正確な位置決めが可能であるということ。このような特長により、本田技研のロボット「アシモ」の腕や足の部分、ハワイ島の大型光学赤外線望遠鏡「すばる」や宇宙衛星の部品、それに2003年には人類初の火星探査車のカメラの方位調整、位置決め装置、車輪やステアリングなどにも利用された。特に、産業用ロボットの関節部品に於いては世界シェア5割を誇っている。現在の単体売り上げ先は、①25.9%が産業用ロボット②16.3%が半導体③10.1%がモーターメーカー向け④7.2%がフラットパネル⑤21.9%が何に使われているか不明、となっており、意外なところで使用されている可能性がある。又、同社では、「技術者に求められるのは、モノ作りへの情熱と、独創的なアイデアを生む感性である」との考えから1980年以來「ハーモニック・コンサート」を開催し、その収益は学校の図書購入費として寄贈している他、海外の第一線で活躍するエンジニアとの対話の中で最新の技術動向を探る「国際シンポジウム」や工場のある安曇野市への感謝の気持ちで開催している「ハーモニック講宴会」などの社会貢献事業を行なっている。なお、伊藤光昌氏の父君伊藤庸二氏は1926年～28年までドレスデンの工科大学に留学、28年には「ぼうぼうあたま(Der Struwelpeter)」を和訳し1936年に第1版を出版。その縁で、1978年、フランクフルトのヘルツオーク氏から光昌氏に「作者のハインリッヒ・ホフマンの貢献を残そう」との呼びかけに応じ1981年にハインリッヒ・ホフマン協会の設立に加わり、同協会理事に就任した。同協会と氏の出身地御宿町歴史民族資料館はこの童話の関係から姉妹提携をしている。このような事業、文化両面に於ける日独間の架け橋としての氏の貢献に対して、昨年12月ドイツ政府より、ドイツ連邦共和国功労勲章功労十字小綬章を授与された。なお、講演会終了後、「土間土間」にて懇親会が行なわれ、昨年入会の天野秀三郎氏、井本義孝氏、小野寺輝孝氏、戸田正保氏らが紹介された。

敬愛大学公開研究会参加報告
「外国人が暮らしをみたいまちづくり」

去る2月5日敬愛大学国際学部水口章准教授ゼミにより掲題研究会が開かれた。同学部は学生400人のうち300人が中国人留学生で、水口准教授はマスコミにも知られた中東の専門家である。同ゼミ学生の学習と国際交流の現場にある者の共通認識を高めるのが目的で、千葉県内の国際交流協会関係者他、学生と合わせて約80名が参加した。先ず県総合企画部国際室荒木稔副主幹から「千葉県の国際化の現状と課題について」と題して、県内在住外国人は155カ国から約107,000人(人口比1.75%)、非常に多様化していて、「国籍や民族などの異なる人々が互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら地域社会の構成員として共に生きていくこと」を基本理念として①国際的産業活動の環境整備、②地域からの国際交流・国際協力の推進、③外国人にも暮らしやすい地域づくりを3本柱にして多文化共生社会づくりが進められている。具体例として外国人アドバイザー事業の展開、幕張インターナショナル・スクールの開校(平成21年4月予定)などが挙げられた。次いで敬愛大学国際学部ゼミの学生グループから「在日外国人にとって市川市は魅力的か」をテーマとした研究発表があった。市川市在住の外国人は103カ国から約13,000人(人口比1.82%)。例えば外国人の相談窓口利用状況は活発であるが、その状況分析結果からなお改善すべき点も指摘された。

(副会長 國枝誠昭)

講演する伊藤氏



懇親会に参加の皆さん

